

名古屋丸の内ロータリークラブ Nagoya Marunouchi Rotary Club Weekly Report

例会会場：名古屋クレストンホテル
(TEL : 052-264-8000)

例会曜日：木曜日 12時30分
クラブ会報広報委員長：黒田 覇太郎
HP : <http://nagoya-marunouchi-rc.org/>

2023-24年度 R.I. テーマ
会長：ゴードン R. マッキナリー

Rotary
Club of Nagoya Marunouchi



世界に希望を生み出そう

承認
会長
幹事
事務局

1995.03.28
松尾 雄二郎
今村 昌根
名古屋クレストンホテル
1007号
名古屋市中区栄 3-29-1

TEL 052-263-1324
FAX 052-263-0730
E-mail seinan1@fancy.ocn.ne.jp

松尾 雄二郎 会長 年度目標 : 親睦、親睦、そして親睦、楽しんで 30周年につなげましょう

1230回 例会 No. 6 令和5年 8月 25-26日(金土)

例会変更「納涼例会＝熱海海上花火大会＝」

- ロータリーソング
- 出席報告 会員43名中12名出席
- 出席率 30.76% 出席計算人数39名
- ゲスト 会員ご家族ご友人5名

会長挨拶

松尾 雄二郎



皆様こんばんは
今日は恵利親睦委員長と佐久間さんのご協力です。再び名古屋を離れて熱海の花火大会です。熱海と言えば昭和初期のハワイ、中期が宮崎、後期が福島で常磐ハワイアンセンターとハワイを付けてしまった。なんて私の勝手なイメージです。

今日はご家族の方も多数参加いただけて嬉しいです。これからは毎年ずーっと同じ様でしょうが、まだまだ暑い日が続きます。風情あるこの会場で、美味しいものを食べて、笑って、きれいな花火を鑑賞して、あと、お酒だけでなく、沢山水分補給もして残暑を乗り切る良い暑気払いとしましょう。堅苦しい挨拶はお酒がぬるくなりますのでこれくらいにさせていただきます。

.....参加者.....
松尾、今村、後藤夫妻、磯部夫妻、黒田夫妻、高橋夫妻、恵利、恵利さんご子息、加藤、小野、佐久間、石井、立石（敬称略）
.....

乾杯ご発声 磯部 徹



例会風景



閉会のご挨拶は後藤 徹さんをお願い致しました。

お食事の後に熱海海上花火を鑑賞



2日目 8月26日(金)

観光組、キックボクシング観戦組など、各々2日目をお楽しみ頂きました。



『Re-CONNECT ローターファミリーホームカミングデイ』
～学友とロータリーのつながりを求めて～

寄稿者：青柳薫子（東京広尾ロータリークラブ）

ロータリーには新世代育成のためのプログラムや奨学金制度があり、それぞれの事業を通じて学び、ロータリーの理念を深めた多くの学友が毎年誕生しています。これらの学友が、プログラムの枠や年代を超えて横につながり、同時にロータリー会員との絆を育み、維持していくことを目的として、国際ロータリー第2750地区ではロータリーファミリー支援委員会が活動を行っています。

『Re-CONNECT ローターファミリーホームカミングデイ』（ホームカミングとは、学校の卒業生が母校に戻ること）は、ロータリーの学友が社会で活躍し、再びロータリーに戻ってくる日です。2回目となる本年度は、2023年5月13日、六本木ヒルズハリウッドホールにて、『アフリカをテーマに世界平和を考える』を掲げ、学友の他、ロータリークラブ会員、インターアクト・ローターアクトクラブ会員、現役奨学生、会員家族や地域の方々など約320名が会場とオンラインで集うハイブリッド形式で開催されました。

冒頭、各プログラム出身者によるロータリーの新世代向けの七つのプログラムの説明に続き、アイスブレイク（アイスブレイクとは、会合の冒頭で互いの自己紹介などを行って、参加しやすい雰囲気をつくること）では、RYLArian（ライラリアンとは、ロータリーのプログラムである青少年指導者要請プログラム [RYLA] の参加者のこと）である長川美里さんのリードで、前後左右に座った参加者全員が自己紹介・他己紹介を行い、会場は和やかな雰囲気に包まれました。アフリカの部前半では、ホームカミングデイ直前に奇しくも激しい内紛が勃発し、スーダンから命がけで帰国された、NPO法人ロシナンテスの川原尚行理事長より、戦乱のスーダン、スーダンの本当の姿と支援活動について講演いただきました。目の前で困っている人がいれば手を差し伸べるという姿勢、失敗を重ねても再び立ち上がって前へ進む行動力には、励まされ、大きな感動と勇気をいただきました。

後半は、ロータリー財団学友菅生零王さん企画・プロデューサーによる『平和構築』をテーマとしたファッションショー、ルワンダと南スーダンのデザイナーのコレクションが披露されました。引き続きのトークショーも含め、貧困と戦う国々でありながら、紛争を乗り越えて未来へ向かって歩みを進めるエネルギーでカッコいいアフリカを知る機会となりました。

懇親の部では、トルコ、ケニア、ラオス、フィリピンで活躍中の学友に会場・オンラインで活動報告をしてもらい、クイズを通じて参加者が一体となることができました。

ロータリーが支援してきた学友は、国境を越えて地域社会のために世界で活躍し、その体験を持ってロータリーに戻ります。違うプログラムの学友同士が互いの活動に興味を持ち、交流できた一日でした。プログラムを終えた学友たちのロータリーを通じての縁は生涯続き、さらに拡げることができることを実感する心温まる有意義な時間となりました。

『ポリオプラス』

～障がい成功の原動力に～

投稿日：8月28日, 2023 投稿者：rotarymasa

寄稿者：バダラ・ダフェ

(セネガル、Dakar Soleil ロータリークラブ)

ポリオは、否応なしに身体を奪う病気です。しかし、ポリオサバイバーである私は、ポリオが残した障害から特別なモチベーションを引き出すことができました。努力と苦労の味を知ることができ、脅威と思われたものをチャンスに変えることができました。

私は1歳のときにセネガルのダカールでポリオに感染しました。熱は何日も続き、特に右足にまひ症状が現れました。医師は当初、マラリアだと思いましたが、それはポリオでした。

数回の手術と、運動機能を回復させるための数え切れないほどのリハビリの後、松葉杖で歩けるようになりました。障がいがあっても、友だちとサッカーをしたり、海に行ったりすることを諦めませんでした。全体的に、私は子ども時代の素晴らしい思い出を持っています。

運動能力が低下していることは自覚していました。だからこそ、勉強に集中しました。成功するにはより努力しなければならないことを、早くから理解していました。校長先生は、私が人ごみの中で倒されることのないよう、ほかの生徒より10分早く教室に行かせてくれました。そのおかげで、何の苦労もなく授業を受けることができました。

セネガルで数学とコンピュータ・サイエンスを学んだ後、フランスのパリ＝サクレ大学で研究を続け、データベースを専門とするコンピュータ・サイエンスの学位を取得しました。パリでキャリアを開始し、フランスの大手企業に勤務後、2000年に母国に戻って西アフリカ諸国中央銀行（BCEAO）に入行しました。そこで21年間勤務した後、最近、ビジネス・コンサルタント会社を立ち上げました。尊厳をもって勉強し、働き、生計を立てることができることに感謝しています。そして、どのような困難があっても、たゆまぬ献身で寄り添って支えてくれた母に感謝しています。家族をはじめ、私を取り巻くすべての人びとが重要な役割を果たしてくれ、これからもそうしてくれるでしょう。私たち障がい者は、アクセシビリティ、さまざまな不安、スティグマ（社会的汚名）、孤立など、さまざまな困難に直面しています。しかし、強い心と、理解と信頼が築かれた環境があれば、どんなことでも可能になります。

私は2013年、Dakar Soleil ロータリークラブ（セネガル）会員である医師の友人からロータリーを紹介されました。ポリオ根絶活動の話聞いた私は、すぐに参加したいと思いました。現在、私は同クラブの会長を務めながら、セネガルのポリオ委員会にも深く関わっています。ポリオには治療法がありませんが、ワクチンで予防することができます。

ロータリアンとして、ポリオサバイバーとして、この記事をお読みの皆さまに強くお願いしたいことがあります。この病気を根絶するために、ロータリーの仲間や私と共に活動が続けていきましょう。子どもたちが二度と、ポリオで苦しめられることのないように。